☆Cha Cha Cha☆

研究通信 No. ３３
令和６年３月１２日（火）
文責：奥山

～福岡教育大学附属久留米小学校～

２年生スーホの白い馬

「スーホのしたこと」「スーホの言ったこと」「スーホの様子」「白馬の様子」「白馬のしたこと」の５つの視点の中から、子どもたちが自分で選択し、「スーホのところへ白馬が帰ってくるところのスーホと白馬のつながり」を読み取っていく授業でした。

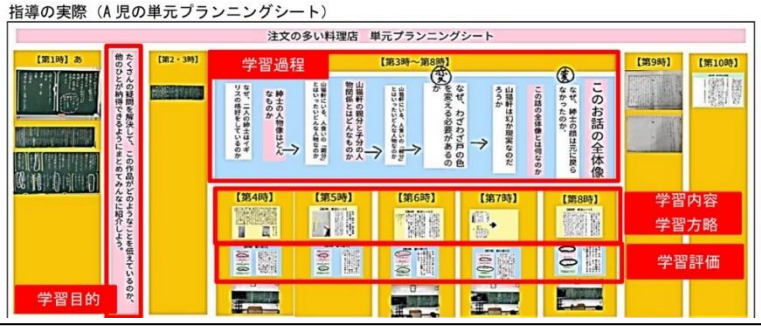
２年生の子どもたちは、めあてを立てる段階から前のめり。本時の授業で何をするのか、よくわかっていました。子どもの声でめあてを立てた後すぐ、子どもたちは自分の考えをロイロノートに記入していました。先生は２０分間という時間の中で①自分の考えをまとめること、②友達と交流することの課題を与え、自分の考えがまとまった子どもから立ち上がり、交流する様子が見られました。②友達と交流することの目的は、「友達からの評価や共有した他者の解釈を参考にして、問いについて話し合いながら、解釈を再構築すること」だったようですが、「再構築」までには行き着いていないように感じました。

考えを再構築するための手立て

考えを再構築するためには、【自分の考えをもつ→友達の意見などと比較する→客観的に自分の考えを見つめ直す（整理する・分析する）→自分の意見を深める】というプロセスがあると思います。このプロセスを子どもに一任して、実行できるようになるまでには教師のアプローチが必要不可欠です。自分の意見を書いて満足してしまう子どもが多いですよね・・・。それか、友達の意見に影響されてそっくりそのまま写す子どももいます。そうならないための手立てを考えていく必要がありそうです。

ICT 活用のデメリット

今回授業を参観し、２年生の子どもたちがローマ字打ちでロイロノートを使いこなしている姿はかっこよかったです。みんな使うことができていました。しかし、ロイロノートに自分の考えをまとめると、自分の意見の変容が見ることができないという弱点があると思います。自分の意見を再構築させたいのであれば、友達と交流する前の自分の意見と、交流した後の意見を見られないと自分の意見の変化がわかりません。

また、子どもたちはタブレットを見ていると、活動しているように見えます。しかし、後ろから見てみると、インターネットでゲームのことを検索していたり、ロイロノートのシートに文字を適当に打って遊んだりする姿などが見られました。子どもたちにとって２０分間の時間は長すぎたのか・・ICT の闇なのか・・・。ICT を使うことに子どもたちが夢中になるのではなく、授業に夢中になれるようにしていかなければいけないなと考えさせられました。

指導の実際（A 児の単元プランニングシート）